

生涯学習

研究部だより

No. 1

今一度

本校が「生涯学習」を研究する目的を確認しよう



障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた動き

H 2 4 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」

- ・中央教育審議会初等中等教育分科会の報告
- ・『共生社会』とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に**参加・貢献**していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える**全員参加型の社会**である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。」と示した

H 2 6 「障害者の権利に関する条約」批准

- ・**障害者の生涯学習**の確保を規定した

H 2 7 国連サミット

- ・「持続可能な開発目標（SDGs）が採択
- ・すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、**生涯学習の機会を促進**することとした

H 2 8 「障害者差別解消法」施行

- ・H 2 5 障害者差別解消法成立
障害者雇用促進法改正

H 2 9 文科大臣メッセージ 発信

- ・「特別支援教育の生涯学習化に向けて」
- ・**学校卒業後**には学びや交流の場がなくなるのではないかと不安を抱いていた保護者の声がかきつけ

H 3 0 障害者基本計画（第4次基本計画）策定

- ・「生涯を通じた多様な学習活動の充実」が盛り込まれる
- ・障害者の**学校卒業後における学びを支援**し、地域や社会への参加を促進することで、共生社会の実現につなげる旨を明確に位置付けた

H 3 1 学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議

「障害者の生涯学習の推進方策について
—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—」（報告）

- ・学校教育を通じて身に付けた資質・能力を維持・開発・伸長していくことができるよう、学校教育における学びと学校卒業後の学びを接続させ、**生涯にわたって学び続けられるようにすることが重要**

引用：障害者の生涯学習の推進方策について
—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）

障害者の生涯を通じた学習活動の実情

平成30年度 文部科学省

「学校卒業後の学習活動に関する障害者本人等アンケート調査」より

- @共生社会に向けて、学習機会の充実は重要である → **8割強**
- @学びの場やプログラムが身近にある → **3割程度**

生涯学習の課題は？

- @一緒に学習する友人、仲間がいない → **7割強**
- @学習費用を支払う余裕がない → **7割強**
- @学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない → **6割強**

平成30年度 秋田県生涯学習センター

「障害者の生涯学習に関するニーズ調査」より

- @共生社会に向けて、学習機会は必要である → **9割強**

お子さんが生涯学習で続けていることは？

- @特にない → **5割**

生涯学習の学習形態は？

自宅、テレビ、ラジオ、インターネットなどの**一人でする学習形態**がトップ3を占めた。
*詳細は、次項の図1を参照

学習指導要領等における生涯学習に関わる主な記載事項

特別支援学校高等部 学習指導要領(平成31年2月公示)

第1章 総則

第2節 教育課程の編成

第5款 生徒の調和的な発達を支える指導

1 生徒の調和的な発達を支える指導の充実

- (5) 生徒が、学校教育を通じて身に付けた知識及び技能を活用し、もてる能力を最大限伸ばすことができるよう、**生涯学習への意欲を高めるとともに、社会教育その他様々な学習機会に関する情報の提供に努めること**。また、生涯を通じてスポーツや芸術文化活動に親しみ、豊かな生活を営むことができるよう、地域のスポーツ団体、文化芸術団体及び障害者福祉団体等と連携し、多様なスポーツや文化芸術活動を体験することができるよう配慮すること。

解説(学習指導要領等説明会説明資料)

(6) 生涯学習への意欲の向上(第1章第2節第5款の1の(5))

本項は、障害者のライフステージ全体を豊かなものとするためには、**障害のある生徒に対して学校教育段階から将来を見据えた教育活動の充実を図ること**を示している。

人が豊かな人生を送っていくことすれば、単に生活が保障され、仕事により賃金を得て、社会における役割を果たしていくのみならず、学習、文化、スポーツといった**生涯にわたる学習や体験の中から生き甲斐を認め、人と繋がっていくことが必要**となってくる。

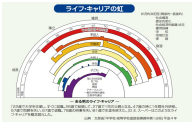
そのため学校教育においては、卒業後の生活において、進路に関する指導だけでなく、スポーツ活動や文化活動などを含め、**障害のある生徒が、自己実現を図るための生涯にわたる学習活動全般を楽しむことができるよう**、第2章以下に示す各教科・科目等又は各教科等の指導や、第1章第2節第3款の1の(6)及び第5款の1の(3)、第6款の1の(3)に示されていることを踏まえ、**在学中から地域における活動に参加し、楽しむ態度を養うとともに、そのために必要な行政や民間による支援について学ぶなど**、卒業後においても様々な活動に積極的に参加できるように、**生涯学習への意欲を高めることが重要**である。

障害のある生徒が、学校卒業後も必要な支援を受けながら豊かな生活を送るためには、**特別支援学校と、企業や障害者福祉施設等、高等教育機関といった卒業後の進路先とが、密接な連携を図ることが不可欠**である。

引き続き、**特別支援学校の場においても**、学校教育のみならず、社会教育、文化及びスポーツといった、就労や日常生活の時間とは異なる、**生涯を通じて人々の心のつながりや相互に理解しあえる活動の機会が提供されるような機能が総合的に発揮されるようにすることも大切**である。

引用：文部科学省「障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた取組」より

生涯にわたって学び続けることは...



複数の場で、社会や人との関わりをもつ

キャリア発達を促していく要素

卒業して仕事を始めると、友達に会うこともなくなる。在学中から興味を広げ、友達と出掛けていると、その延長で、今も友達と出掛ける。仕事だけでなく、休日に楽しみがある方がよい。友達同士で出掛けるとハブニングもあり、お金の使い方など、できること、できないことも分かる。



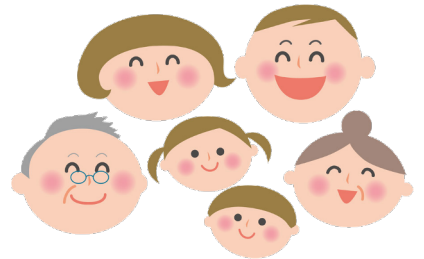
「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と言われるキャリア発達を促すために学校教育に求められる姿*として「生涯にわたって学び続ける意欲の向上」が明記されている。

*次項の図2を参照

【R3本校中部PTA卒業生保護者の進路講話より要約】

人間の根源的な喜びとなるもの

知らなかったことを知ること
 できなかったことができるようになること
 そして、人や社会とつながることは、人間の根源的な喜び



H31「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―（報告）」より抜粋

以上の

「社会の要請」や「本人のニーズと現状」を踏まえ、

「一人一人の成長や豊かな生活、幸せな人生」「共生社会の実現」に向けて

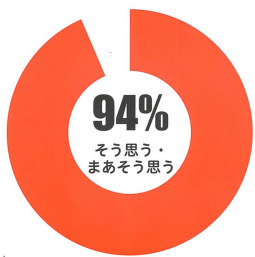
在学中に

ヒト・モノ・コトと出会う喜びや楽しさを味わい、関わりを通して学ぶことで、

児童生徒一人一人の

『主体的にヒト・モノ・コトに関わり、

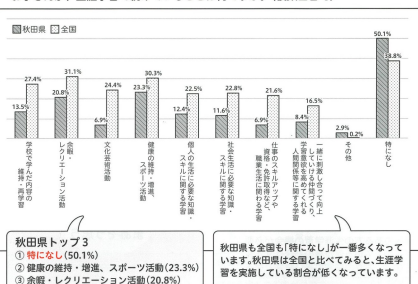
生涯にわたって学びに向かい 成長しようとする力や態度』を育てていく。



◎「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと感じますか。

■生涯学習の経緯

お父さんが、生涯学習で続けていることは何ですか。(複数回答可)



■学習形態

お父さんは、生涯学習をどのようにして続けていますか。(複数回答可)

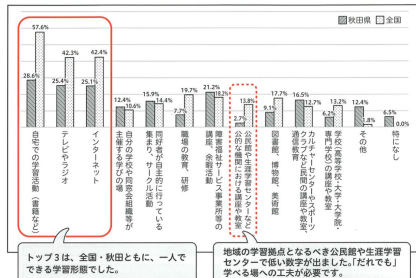


図1 秋田県生涯学習センター「障害者の生涯学習に関するニーズ調査」より抜粋

キャリア教育が必要となった背景と課題

情報化・グローバル化・少子高齢化・消費社会等

- | | |
|--|---|
| <p>学校から社会への移行をめぐる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・新卒学生者に対する求人状況の変化 ・求職希望者と求人希望との不適合の拡大 ・雇用システムの変化 ②若者自身の資質等をめぐる課題 <ul style="list-style-type: none"> ・勤め先、職業観の成熟と確立の遅れ ・社会人、職業人としての基礎的資質・能力の発達の遅れ ・社会の一員としての経験不足と社会人としての意識の未発達傾向 | <p>子どもたちの生活・意識の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもたちの成長・発達上の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向 ・生活体験・社会体験等の機会の喪失 ②高学歴社会における進路の未決定傾向 <ul style="list-style-type: none"> ・職業について考えることや、職業の選択、決定を生送りにする傾向の高まり ・自立的な進路選択や将来計画が希薄なまま、進学、就職する者の増加 |
|--|---|

学校教育に求められている姿

「生きる力」の育成
 ～確かな学力、豊かな人間性、健康・体力～

- 社会人として自立した人を育てる観点から
- ・学校の学習と社会とを関連付けた教育
 - ・生涯にわたって学び続ける意欲の向上
 - ・社会人としての基礎的資質・能力の育成
 - ・自然体験、社会体験等の充実
 - ・発達に応じた指導の継続性
 - ・家庭・地域と連携した教育

キャリア教育の推進

図2 文部科学省「キャリア教育の必要性と意義」より抜粋